



令和3年度 農地中間管理事業 活用優良事例集



令和4年3月



公益財団法人鹿児島県地域振興公社
(鹿児島県農地バンク)

目次

地区名	取組	特徴
① 阿久根市 脇本桐野・筒田地区	地域集積協力金を活用して、地域の課題解決を図る	樹園地 (果樹) JAの 支援
② 薩摩郡さつま町 羽有地区	地区推進委員会と行政のタッグで機構関連農地整備事業を導入	機構関連 整備事業 中山間 人・農地 プラン
③ 出水郡長島町 城川内地区	隣接地区から影響を受けて、地域集積協力金事業に取り組む	農業 委員会 中山間 町バンク 推進員
④ 霧島市 福山町佳例川立元A地区	鳥獣害対策(電気柵設置)と併せて中山間地の農地集積を実現	中山間 鳥獣害 対策
⑤ 伊佐市 大田地区	土地改良区・事業推進委員のリーダーシップで水田地帯の農地集積を実現	機構関連 整備事業 中山間 土地 改良区
⑥ 始良市 住吉地区	他事業との比較検討を重ね機構関連農地整備事業を導入	機構関連 整備事業 中山間 人・農地 プラン
⑦ 始良市 上名地区	地元土地改良区と行政とのタッグで中山間地の農地集積を実現	中山間 土地 改良区
⑧ 始良郡湧水町 轟(平田)地区	地元農業委員・最適化推進委員のタッグで迅速な農地集積を実現	農業 委員会 中山間
⑨ 曾於市 大隅町新坂元地区	基盤整備事業を機に担い手への農地集積を実現	県営基盤 整備事業 中山間 基盤整備 換地委員
⑩ 大島郡和泊町 国頭地区	農業委員等が戸別訪問等により、単年度で217haを利用権設定	農業 委員会 県営基盤 整備事業 人・農地 プラン
⑪ その他	農地中間管理事業活用者からのメッセージ	

【参考資料】 本県における農地中間管理事業の実施状況

わきもと きりの つつだ
① 阿久根市脇本桐野・筒田地区

樹園地
(果樹)

JAの
支援

地域集積協力金を活用して、地域の課題解決を図る



取組のポイント

- ✓ 果樹産地における農地中間管理事業への取り組み。
- ✓ 市、県、JA等の関係機関で栽培技術、営農面の課題掘り起こしと解決への支援。
- ✓ 地域集積協力金を活用して共同利用施設を整備。

地区の概要

- ・阿久根市の北東部に位置する畑地帯(総畑面積168ha)で、古くから果樹類(近年では「紅甘夏」や「大将季」)の栽培が盛んで県内有数の産地。
- ・近年は、後継者を含む新規就農者が増えてきている。

取組の内容

- ① 地域農業者の高齢化が進む中、平成29年度から地域と関係機関・団体が地域の原状・課題等について話し合いがスタート。
- ② 収穫時の労力確保や夏の干ばつ時の農業用水確保について地域から要望あり。
- ③ 協力金を活用して収穫労力応援者用の簡易トイレ設置や農業用水スタンド等の設置を決定。

関係機関の取組

～地域段階推進チーム～

阿久根市農政課

- 契約申請手続き総括
- 人・農地プラン実質化

農業委員会

- 貸出者・借受者の調整

桐野・筒田地区果樹振興管理組合

- 農地等の情報提供

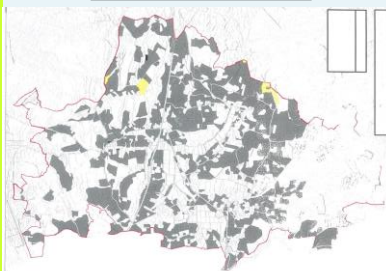
北薩地域振興局出水市駐在及び
JA鹿児島いずみ

- 地域課題の調査・情報提供

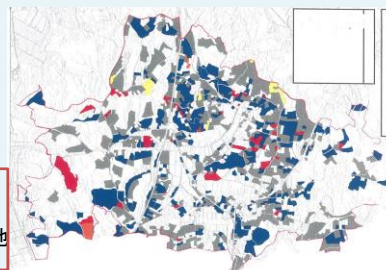
連携・情報共有

取組の成果

バンク活用前



バンク活用後



区 分	担い手への 集積面積	集積率	担い手の平均 経営面積
バンク活用前	6.17ha	3.7%	2.59ha
バンク活用後	14.40ha	8.6%	2.86ha

② 薩摩郡さつま町羽有地区

はあり

機構関連
整備事業

中山間

人・農地
プラン

地区推進委員会と行政のタッグで機構関連農地整備事業を導入



さつま町

鹿児島県

取組のポイント

- ✓ 羽有地区農地整備事業推進委員会と町バンク推進員を中心に、出し手・受け手に対する制度周知と同意徴取に奔走。
- ✓ 行政との協議で、受益面積を初期構想の2倍にして地域を一体的に整備し集積・集約化を計画。

地区の概要

- ・さつま町北東部の中山間地に位置する12haの水田地帯で普通水稻と飼料作物を栽培している。
- ・1区画当たりの平均面積が10aと狭小で、湿田もある。農道も狭幅であり、用水兼排水路も老朽化し維持管理に労力を要している。大区画化と汎用化による担い手確保が課題となっている。

取組の内容

- ① 平成30年に話し合いを始め、行政を加えた地域の話し合い活動により、事業範囲を広げ、さらに効率的な区画整理を目指し、令和3年度に概ね契約同意を得た。
- ② 用水系統、土地所有者の重複があった北側（昭和以前整備済6ha）と南側（昭和後期整備済6ha）を一体的に再整備することにした。
- ③ 機構関連農地整備事業に取組むことにより、令和2年度に人・農地プランの実質化、令和3年度に地域集積協力金の申請を成し遂げた。
- ④ 令和4年度事業採択、令和5年度には着工し、認定新規就農者を育成しながら、令和14年度には目標集団化率・収益向上の達成を目指す。

関係機関の取組

～地域段階推進チーム～

さつま町耕地林業課・担い手育成支援室

- 契約申請手続き総括
- 人・農地プラン実質化
- 町バンク推進員の戸別訪問による同意徴取

農業委員会

- 農地情報提供・相続未登記農地の調査

羽有地区事業推進委員会

- 制度の周知
- 申請書類受付

連携・情報共有

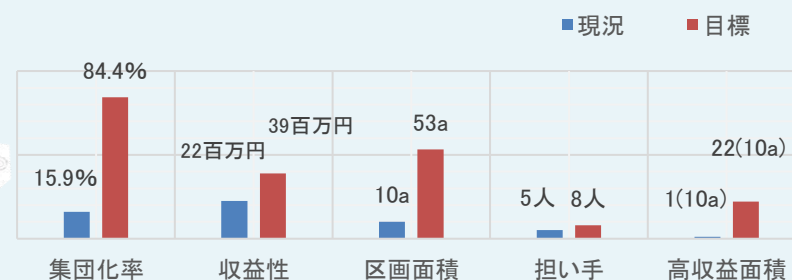
取組の成果

現況(R2)

目標(R14)



担い手
非担い手



③ 出水郡長島町城川内地区

じょうかわうち

農業
委員会

中山間

町バンク
推進員

近隣地区から影響を受けて、地域集積協力金事業に取り組む



長島町

鹿児島県

取組のポイント

- ✓ 近隣地区の地域集積協力金交付事業の取り組み（防除用ドローン整備）に影響されて、地域から事業説明会開催要望あり。
- ✓ 町バンク推進員が入念な下準備を行い、大まかな集積率まで調査・提示して参加意欲を促す。
- ✓ 地区農業委員・最適化推進委員・地域役員の積極的な事業推進。

地区の概要

- ・長島町の南西部に位置する畑地・水田が混在する地域（農地面積72.3ha）で、主として、バレイショ、普通期水稻等を栽培。
- ・赤土の畑で栽培されたバレイショは、市場性が高く農地の引き合いが強い。

取組の内容

- 令和3年7月、地域事業説明会を開催。地域集積協力金事業を説明し、大まかな集積見込率を提示。
- 関係者の事業取り組みへの意思確認、組織化及び役員選任。
- 地区農業委員及び最適化推進委員が「出し手」「受け手」の調整及びマッチングを支援。
- 地区内農地を区割りし、役員及び農業委員等が戸別訪問等により同意書徴取。

関係機関の取組

～地域段階推進チーム～

長島町農政課

- 契約申請手続き総括
- 人・農地プラン実質化

農業委員会

- 農業委員・最適化推進委員からの農地情報提供
- 貸出者・借受者の調整・マッチング

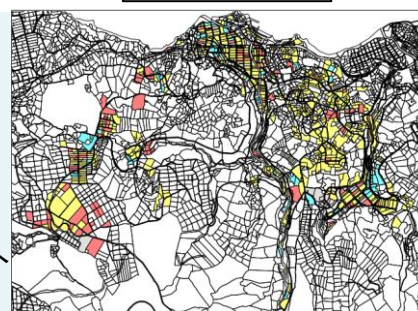
城川内地区営農協議会

- 地域内の事業推進・同意書取りまとめ。
- 貸出者・借受者の調整・マッチング

連携・情報共有

バンク活用前

バンク活用後



区 分	担い手への 集積面積	集積率	担い手の平均 経営面積
バンク活用前	6.3ha	7.2%	0.45ha
バンク活用後	18.8ha	26.0%	1.30ha

【R3年度城川内地区のバンク活用状況】

総面積：93.3ha（うち、田：28.4ha、畑：64.9ha）

取組の成果

④ 霧島市福山町佳例川立元A地区

かれいがわ たちもと

中山間

鳥獣害
対策

鳥獣害対策(電気柵設置)と併せて中山間地の農地集積を実現



取組のポイント

- ✓ 「鳥獣害対策の電気柵を設置したい」との地元から市への相談が発端となり、鳥獣害対策実践事業を農地中間管理事業と併せて推進。
- ✓ 市(本庁・福山総合支所)及び関係機関総動員の地元説明会以降、地元での事業推進に向けた気運が高まり、農地の貸借が進行。

地区の概要

- ・霧島市南東部の中山間地に位置する一団が20～30ha規模の水田・畑地帯で、昔からさつまいもを基幹作物として水稻や露地野菜等が栽培されている。
- ・担い手5名ほどが耕作しており、隣接する国有林等からイノシシ、シカ、サル、アナグマ等が侵入し被害が年々増加。

取組の内容

- ① 令和3年7月に地元説明会開催(農地中間管理事業、鳥獣害対策実践事業の説明)。
- ② 事業推進員や地元リーダーが足しげく担い手を訪問し、膝を交えて10年後の農地を語る。
- ③ 令和3年度に機構集積協力金(地域集積協力金)の交付を見込み、草刈用大型重機購入予定。
- ④ 今後、電気柵の設置や基盤整備事業の導入、農地中間管理事業の周辺地域への拡大を図る。

関係機関の取組

～地域段階推進チーム～

霧島市農政畜産課

連携・情報共有

霧島市福山総合支所

連携・情報共有

佳例川地区多面的組織

地元リーダーによる
事業推進

農地集積組合(担い手)

- 制度の周知
- 申請書類受付

事業推進員による個別推進

取組の成果

バンク活用前



バンク活用後



区 分	担い手への 集積面積	集積率	担い手の平均 経営面積
バンク活用前	0ha	0%	—ha
バンク活用後	6.62ha	20%	6.62ha

⑤ 伊佐市大田地区

おた

機構関連
整備事業

中山間

土地
改良区

土地改良区・事業推進委員のリーダーシップで水田地帯の農地集積を実現

取組のポイント

- ✓ 大口土地改良区及び事業推進委員がリーダー役となり、貸し手・借り手に対する制度周知と同意徴取に奔走。
- ✓ 機構関連農地整備事業の活用による基盤整備及び農地集積を推進。

地区の概要

- ・伊佐市中央～やや北部の平地に位置する約50haの水田地帯で、古くから伊佐米を基幹作物としており、近年では大豆やWCS用稲等が栽培されている。
- ・昭和初期の耕地整理地区であり、平均区画が10a程度と狭く、排水不良田が散在するため、機構関連農地整備事業の導入による大区画化と排水改善を目指している。

取組の内容

- ① 令和元年度から地域集積の取組開始。令和4年度機構関連農地整備事業新規採択を目指し、令和2年度に大田地区農用地利用組合を設立し、関係機関を含め、事業推進上必要な協議を9回行った。「4コマ漫画方式」の説明資料を作成し、説明会や関係自治会配布により理解促進を図った。
- ② 令和2年度に地域集積協力金の交付を受け、事業推進活動に活用した。
- ③ 高収益作物(根深ねぎ、葉たばこ他)生産等について、さらに具体的な検討を進める。

伊佐市



関係機関の取組

～地域段階推進チーム～

伊佐市 農政課
農業委員会

連携

大口土地改良区

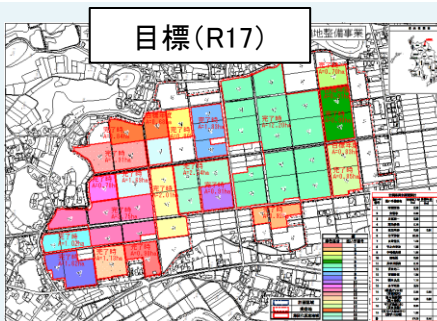
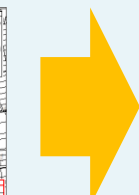
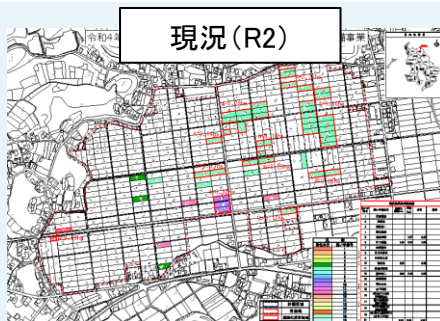
連携・情報共有

大田地区農地整備事業推進
委員会(農用地利用組合)

制度周知・事業推進

貸し手及び担い手

取組の成果



区 分	担い手への 集積面積	集積率	担い手の平均 経営面積
現況(R2)	4.90ha	10%	1.23ha
目標(R17)	39.42ha	84%	2.07ha

⑥ 始良市^{すみよし}住吉地区

機構関連
整備事業

中山間

人・農地
プラン

他事業との比較検討を重ね機構関連農地整備事業を導入

取組のポイント

- ✓ ほ場整備の導入事業を比較決定し、棚田状態を整備し周辺整備済み地区と一体的に集積。
- ✓ 水管理省力化のために、住吉池からの用水路をパイプライン化し、自動給水栓を導入。

地区の概要

- ・始良市中央部の住吉池下流域(旧始良・蒲生町境)の中山間地域に位置する6.8haの水田地帯で、普通期水稻と飼料用作物が栽培されている。
- ・1区画当たりの平均面積が10aと狭小で、農道、用排水路等の整備が不十分。高齢化により耕作放棄地も増加してきたため、農業生産基盤整備による担い手確保が課題となっている。

取組の内容

- ① 平成27年度末、地元からほ場整備の要望が出され、農業競争力強化基盤整備事業(中山間地域型)の採択を目指して地区代表が検討開始。
- ② ①の事業との比較検討の上、平成29年度に負担金のない機構関連農地整備事業に取組むことを決定した。
- ③ 機構関連の利用権設定への取り組みにより、平成30年度に地域集積協力金申請し、工事後の地域のために役立てる予定。また、令和2年度には人・農地プランの実質化を成し遂げた。
- ④ 令和元年度事業採択、令和2年度に着工し、認定新規就農者を育成しながら、令和10年度に目標集団化率・収益向上の達成を目指す。



関係機関の取組

～地域段階推進チーム～

始良市耕地課・農政課

- 契約申請手続き総括
- 人・農地プラン実質化
- 市バンク推進員の戸別訪問による同意徴取

農業委員会

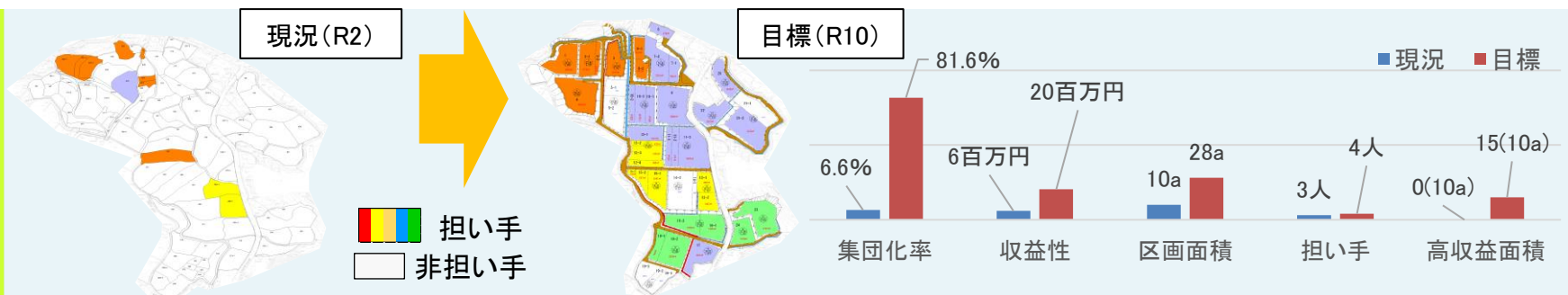
- 農地情報提供・相続未登記農地の調査

住吉地区推進部会

- 制度の周知
- 申請書類受付

連携・情報共有

取組の成果



かんみょう
⑦ 始良市上名地区

中山間

土地
改良区

地元土地改良区と行政とのタッグで中山間地の農地集積を実現

取組のポイント

- ✓ 土地改良区の理事長がリーダー役となり、行政とともに制度周知と契約取得に奔走。
- ✓ 集落毎の説明会や個別訪問などきめ細やかな活動により、農地バンクへの集積が進んだ。

地区の概要

- ・始良市北部の中山間地に位置する水田地帯で、水稻単作中心の兼業農家が多い5集落で構成される地区である。
- ・地区には上名地区を中心とした土地改良区があり、農地と農業の問題に深く係わり活動している。

取組の内容

- ① 令和元年度末から検討を始め、令和2年度は農家説明会に向けて土地改良区役員と行政・関係機関とで取り組みを進め、令和2年度内の集積に結びつけた。
- ② 集落公民館(4か所)と、出席できなかった農家を対象に1回追加し、計5回の説明会を開催。
- ③ 契約取得活動については、説明会参加農家へは市が中心となり、説明会欠席農家に対しては土地改良区役員と市職員が訪問活動を実施。
- ④ 結果として地域集積協力金の交付も受け、協力金は地域農業に役立つことに使う予定である。



関係機関の取組

～地域段階推進チーム～

始良市農政課
農業委員会

〇 連携・協力

土地改良区

役員・行政・市バンク推進員

奈良袂集落

内山田集落

板ノ口集落

黒瀬北・南集落

バンク活用前



バンク活用後



上名地区全体での農地バンク活用面積の変化

活用前	活用後		
	基盤法からの 載せ替え	新規に契約	合計
0.6ha	10.9ha	13.0ha	24.5ha

活用後：R3年12月時点の契約面積

取組の成果
(北部地区を除く)

⑧ 始良郡湧水町轟（平田）地区

農業
委員会

中山間

地元農業委員・最適化推進委員のタッグで迅速な農地集積を実現



取組のポイント

- ✓ 農業委員、農地利用最適化推進委員、地域役員等が連携し、積極的な推進活動を行う。
- ✓ 農地バンク、農業委員会が一体となって計画的な事業支援を行い、迅速な農地集積を実現。

地区の概要

- ・湧水町の平田地域は中山間地に位置する約18haの水田地帯で、湧水米を基幹作物として粗飼料等が栽培されている。
- ・農家の高齢化が進み将来の耕作者確保が困難となりつつあり、農地貸し借りの必要性が高まっている。

取組の内容

- ① 町・地域と農地バンクが連携し、令和3年4月から説明会開催や合同での貸出借受等書類作成をこまめに実施し、同年6月末に農地利用集積計画申請を完了した。
- ② 農業施設等の維持補修等に地域集積金を充てることを目標として、農地バンク事業の取り組みを実施した。
- ③ 今後、未契約地について引き続き事業推進を図る。

関係機関の取組

～地域段階推進チーム～

農業委員会

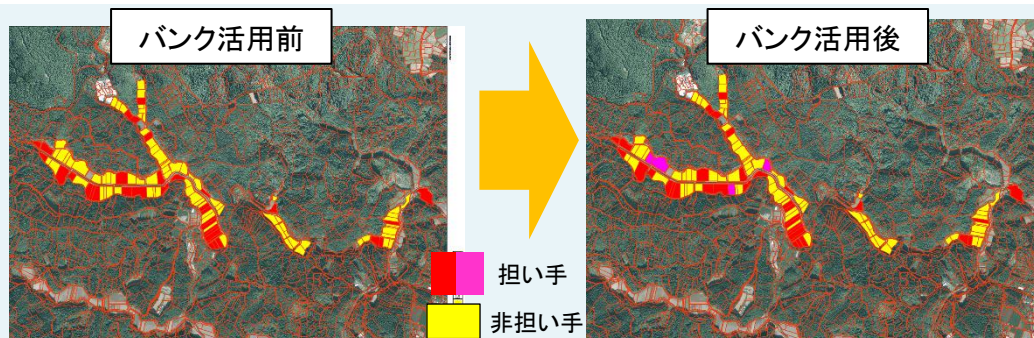
- 農業委員、農地利用最適化推進委員等が電話や戸別訪問で事業推進

積極的推進

平田地域農地利用組合

- 事業の周知
- 説明会・書類作成へ呼びかけ等

取組の成果



	担い手への 集積面積	集積率	担い手の平均 経営面積
バンク活用前	6.41ha	35%	0.36ha
バンク活用後	7.44ha	40%	0.53ha

⑨ 曾於市大隅町新坂元地区

しんさかもと

県営基盤
整備事業

中山間

基盤整備
換地委員

基盤整備事業を機に担い手への農地集積を実現



取組のポイント

- ✓ 換地委員がリーダー役となり、出し手・受け手に対する制度周知と同意徴取に奔走。

地区の概要

- ・曾於市大隅町北西部の県道63号沿線に位置する37haの畑地帯。生産牛の飼養が盛んで、主に飼料作物やさつまいもが栽培されている。
- ・70歳以上の農業者が約52%を占め、大規模な県営農地整備事業（畑地帯担い手支援型）が進められている。

取組の内容

- ① 地区内農業者から市へ「基盤整備の負担金を少しでも軽減できないか」との相談があり、令和元年度から地域集積協力金への取組みを実施。
- ② 市が地区内農地の貸借状況を調べ、地区内での話し合いを円滑に進めた。
- ③ 負担軽減のため地域リーダーである換地委員が積極的に推進し、出し手・受け手に対する制度周知と同意徴取を行った。
- ④ 今後、経営規模拡大を希望する非担い手を認定農業者へ誘導し、農地バンクを活用して更に農地の集積を進める。

関係機関の取組

～地域段階推進チーム～

曾於市大隅支所産業振興課

- 事業・制度の説明
- 契約申請手続き
- 換地情報の共有

農業委員会

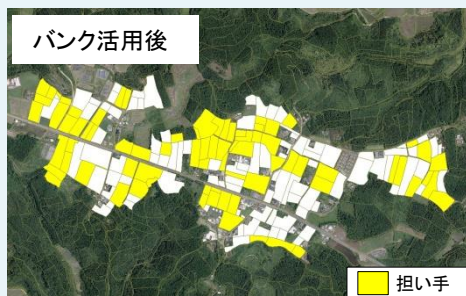
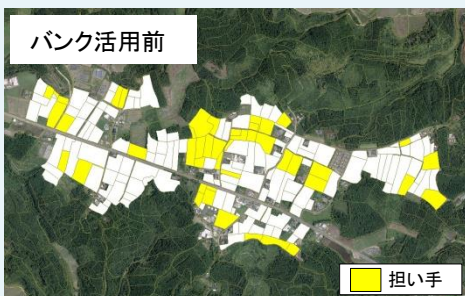
- 農地情報提供

換地委員

- 制度の周知・同意徴取

連携・情報共有

取組の成果



区 分	担い手への 集積面積	集積率	担い手の平均 経営面積
バンク活用前	9.6ha	25.8%	1.0ha
バンク活用後	17.6ha	47.3%	1.8ha

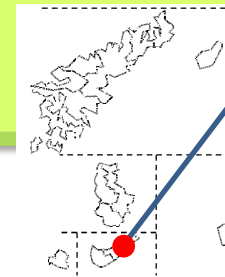
⑩ 大島郡和泊町国頭地区

農業
委員会

県営基盤
整備事業

人・農地
プラン

農業委員等が戸別訪問等により、単年度で217haを利用権設定



和泊町

取組のポイント

- ✓ 基盤整備完了を機に農地中間管理事業を活用した農地集積への取り組み。
- ✓ 農業委員会が農地中間管理事業の窓口として事業推進。
- ✓ 地域の農地を知り尽くした農業委員・最適化推進委員が積極的に活動。

地区の概要

- ・和泊町の北部に位置する畑地帯(総畑面積350ha)で、古くから「花き」、「サトウキビ」、「露地野菜」、「飼料用作物(畜産)」等の栽培が盛ん。
- ・和泊町内で最も農業が盛んな地域で、農地面積、農家数ともに多い。

取組の内容

- 令和3年6月、町経済課と農業委員会共催による事業説明会を実施。
- 次に、3人の農業委員・推進委員が担当地区ごとに戸別訪問・利用権設定の同意徴取。
- 町経済課と連携し、地区の「人・農地プランの実質化」作業を並行して進める。
- 書面によらない農地の貸借が常態化しているなかで、法に則った契約を推進。
- 農業委員会事務局で、地区ごとに利用権設定書を取りまとめ、契約事務作業の効率化を図る。

関係機関の取組

～地域段階推進チーム～

和泊町経済課

- 人・農地プラン
実質化

連携・
情報共有

和泊町農業委員会

- 契約申請手続き総括
- 農業委員・最適化推進委員
の戸別訪問による事業推進

バンク活用前



バンク活用後



- 担い手の耕作地
- 担い手への新規集積

区 分	担い手への 集積面積	集積率	担い手の平均 経営面積
バンク活用前	162.2ha	46.3%	2.0ha
バンク活用後	195.1ha	55.7%	2.5ha

取組の成果

⑪ その他

農地中間管理事業活用者からのメッセージ



畜産経営Uさん
【曾於郡大崎町】

農地といっても人の財産なので、貸してもらうには信用を得ることが大事ですね。事業活用前は、農地所有者と直接交渉するのに苦労していました。活用後は、役場が手続きの間に入ってくれて、お互い安心して貸し借りできています。

市役所に相談したところ、この制度を紹介してもらいました。所有者も「安心して貸すことができる」と喜んでいただけたので、私もうれしいです。さらにこの制度を活用し規模拡大を図り、地域に貢献しながら会社を大きくしたいです。



法人経営Oさん
(露地野菜)
【南九州市】



法人経営Mさん
(露地野菜)
【大崎町】

農地の貸し借りは正式に利用権を設定することが大事だと感じています。口約束では他に証明することもできませんしね。事業を活用することで管理も支払も楽になりました。農業委員会や役場の協力が大変ありがたいです。借りた農地は、従業員一同、愛情を込めて手入れをしています。

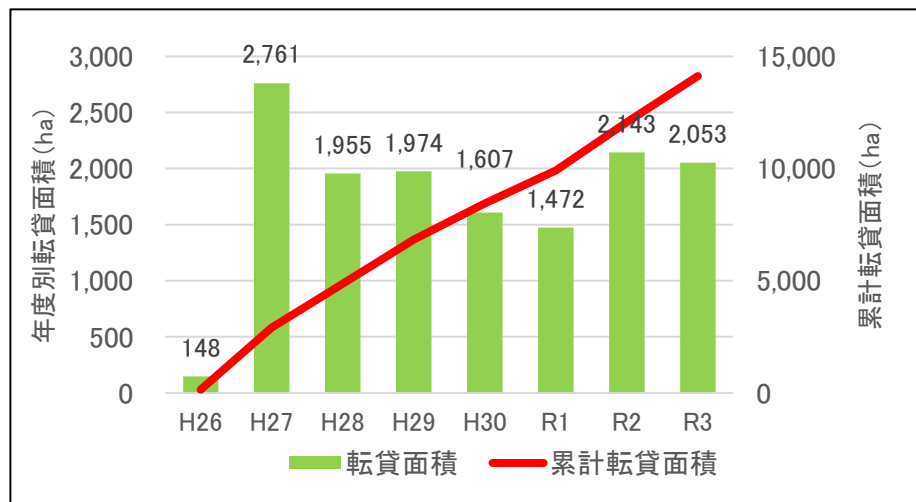
年々足腰も弱り、畑の管理が負担で大変でした。集落皆で話し合っ事業を活用することにしました。自分の農地が荒れることなくきれいに管理されているのを見ると嬉しいですね。地域の若手農家が借りてくれて、とっても頼もしいです。



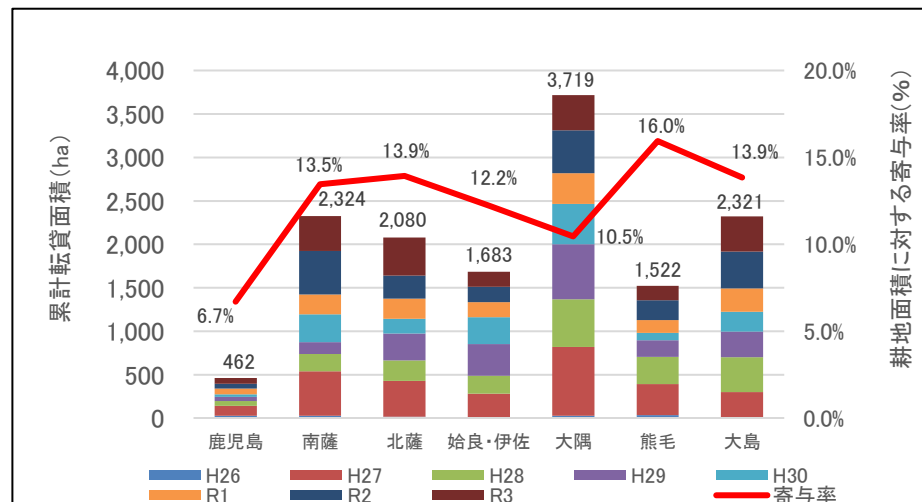
農地所有者Aさん
【南九州市】

【参考資料】 本県における農地中間管理事業の実施状況

(1) 年度別転貸面積と累計転貸面積の推移



(2) 地域別の累計転貸面積と耕地面積に占める割合



- 累計転貸面積は14,113haとなり、県全体の耕地面積(114,800ha)の1割以上が農地中間管理事業で貸借されている。
- R2年度からは、県内3市町村農業公社にも業務委託を行い、旧農地集積円滑化事業から中間法への移行に伴う利用権設定が進んでいる。
- コロナ禍であっても、地域で手法を工夫しながら事業に取り組んだり、既契約の再設定(更新)や他の貸借方法からの載せ替えが進むなどして、近年は2,000haを超える実績で推移している。

- 全地域ともに、H27～28年度にかけての転貸面積が大きい。制度が地元浸透しつつあったことや、機構集積協力金の交付単価が最も高かったことで、一気に活用が進んだものと考えられる。
- 累計転貸面積は大隅地域が最も多いが、耕地面積に対する寄与率をみると、熊毛地域の割合がトップで、次いで北薩、大島地域が同率となっている。
- 県内41市町村のうち、5町の農業委員会は、町からの事務委任を受け、農業委員会が主体となって事業を推進しており、これらの地域では実績も大きい特徴がある。

～鹿児島県農地バンクHPでは、事業に関する情報を随時、発信しています～

<http://www.kagoshima-kikou.jp/>

農地バンク(県地域振興公社農地部)HPはこちら！

鹿児島県農地バンク

検索



R4年3月大幅
リニューアル予定！



スマホ対応で
簡単・便利
に！

※レイアウトはイメージです

【編集後記】

この度、地元の農業者や行政（県・市町村）、農業委員会、JA、土地改良区などの皆様が尽力され、農地中間管理事業を活用して農地の集積・集約化に取り組まれた事例をとりまとめました。

本事例集の作成にあたっては、関係者の皆様に快く取材をお引き受けいただき、また、貴重な参考資料を提供いただきましたことに深く感謝申し上げます。

本事例集が、県内各地域での新たな取組の参考として活用され、皆様方の事業推進にお役立ていただければ幸いです。

令和4年3月発行

公益財団法人 鹿児島県地域振興公社農地部
(鹿児島県農地バンク)

〒892-0821 鹿児島県鹿児島市名山町4番3号

☎ 099-223-0223(農地部直通) FAX 099-227-9412

E-mail nouchi@kagoshima-kousya.jp